

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	主介護者の精神的状況に起因した在宅療養障害例の検討
日時	平成 25 年 3 月 30 日 11 : 10~11 : 20
会場	第 8 会議室
座長	放送大学 田城 孝雄先生
演者	財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 大原 宏夫先生
企画趣旨	<p>【目的】主介護者の精神状況を把握することは在宅医療を進めるうえで大切である。今回主介護者の精神的状況に起因した在宅療養障害例に関して対応およびケアを中心に検討を加え報告する。</p> <p>【方法】対象は 2004 年 8 月 1 日から 2012 年 10 月 31 日まで経験した 486 例（男 219 例、女 267 例）で、中その介護者が何らかの精神的問題を抱えていた症例 35 例だった。</p> <p>【結果】介護者が何らかの精神的問題を抱えていた 35 例の主介護者の精神状況は次の様であった。極めて自己主張の強く最期までどこまでも治療を追及される方 14 例、認知症の方 5 例、知的理解力の低い方 9 例、パニック症候群の方 1 例。介護放棄の方 2 例、うつ病の方 3 例、引きこもりの方 1 例であった。</p> <p>【考察】在宅医療において、介護者についての精神的状況の把握及び検討まではあまりなされていないのが現状である。今回、介護者の精神状況から何らかの在宅療養に支障をきたした 35 例の介護家族についてみたところ、何らかの精神的問題を抱えており、それらが原因で患者の療養状況に影響が生じていた。中でも自己主張の強い方が最期までの治療を頑なに選択し続けて場合、必ずしも介護者の期待する方向へ進まない状況を迎えることがあり、その対応には慎重な配慮が必要とされた。一方、精神科的問題を抱えている場合は、それぞれに対応した適切な在宅医療、介護体制の提供、または見取りは施設で行う配慮で解決できた。医療介護環境の変化で、在宅療養に入ることは避けられなくなってきた現在、介護者の精神的面にも配慮した対応が今後ますます重要であると考えられた。</p> <p>【結論】在宅療養に入ることが避けられなくなってきた現在、在宅医療側は主介護者の精神的状況にも配慮した対応が重要である。</p>